

検証3年目後半には最終報告書をまとめたい 原発事故検証総括委員長の池内了名古屋大名誉教授が見解



全国から集まった参加者。上の写真は池内教授。



【ヤクシソウ】キク科の二年草。漢字で「薬師草」と書きます。花期は9～11月。花は黄色。この時期になると、花が少ないので目立ちます。茎は折ると白い乳液が出ます。花言葉は、「賑やか」「不信感」。12日、柿崎区にて撮影。

もに危険性への警戒心が緩んでく
る可能性があること、
時間とともに避難計画を見直す必要
があることなどから、新潟県に原発
がある限り継続すべきだとのべまし
た。そして、全国の各原発は原発立
地ごとの特殊性はあるが、新潟県の
避難要領が原発立地県の模範になる
ように、内容的にも整備していく必
要があるとのべました。

健康・生活委員会については、健
康分科会と生活分科会をつくって作
業が進められています。同教授は、
柏崎刈羽原発で過酷事故が起こった
場合に、新潟県や県民が被る可能性
がある被害、日本の将来にもたらさ
れる危機を列挙すること、県民の健
康生活破壊の責任を誰がどうとする
かなどが問題提起されてくるのでは
ないかと語りました。

検証総括委には独自の検証課題も
これら3つの検証委員会の議論を
踏まえ、まとめていくのが検証総括
委員会の役割です。池内教授は、そ
のほかにも、避難先からの帰還問題
や深層防護の第5層の欠落問題な

ど、3つの検証委員会ではカバーで
きない問題の抽出と議論、東電の適
格性などについても議論していく必
要があると訴えました。

検証総括委員長として、同教授は
議論やまとめに要する期間について
も言及しました。期間としては3
年間は必要とあり、可能ならタウ
ンミーティングや福島への調査も
行って、3年目の後半には検証報告
案を審議して、最終報告をまとめて
いきたいとのべていました。

交流会では、原発問題住民運動
全国連絡センター代表委員の伊東達
也さんが基調報告を行い、今回の集
会を新潟県で開催する意義、国と東
電の原発事故における加害責任、看
過できない最近の原発動向などに
ついてのべました。また、新潟大学名
誉教授の立石雅昭さんが、「検証な
くして原発再稼働はありえない」と
題して、新潟県の検証作業の歴史的
な意義、技術委員会が明らかにした
原子カプラーの実態、安全神話の復活
に関してコンパクトに報告しまし
た。

福島第一原発事故からちようど7
年8か月となった11日、1日福島
事故の検証のない原発再稼働はあり
えないと、全国交流会が柏崎市産業
文化会館で開催され、私も参加して
きました。

集会では、「新潟県原子力発電所
事故に関する検証総括委員会」の委
員長を務めている名古屋大学の池内
了へいけうち・とおる（名誉教授が
「福島事故の検証」というタイトル
で記念講演をされました。

世論を重視した運動を

同教授はまず、花角新潟県知事
が、「県民のいのちと暮らしを守る

ことが第一であり、原発事故に関す
る3つの検証をしっかり進めること
しているのは新潟県民の世論による
として、引き続き、世論を重視した
闘いが必要だとのべました。その上
で、いまの技術委員会については、
液状化など新たな技術的課題が出て
きていることや事故を起こした福島
第一原発の原子炉を開かないと分か
らない問題があること、原発の技術
を客観的にチェックする組織が必要
であることなどから継続すべきと強
調しました。

避難先は必ずしも必要

避難委員会についても、時間と

はしづめ法一の
活動レポート

No.1884 2018.11.18
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第五三二回 「春よ恋」

ひと月ほど前の朝のことです。吉川区の鳥倉団地で「しんぶん赤旗」の配達をしているときでした。

父の代からお世話になっている家のY子さんの姿が見えたので、朝の挨拶をしました。普通ならそれだけで終わりののですが、この日は違いました。私が車に乗り込もうとしたところで、Y子さんに、「橋爪さん」と呼びこめられたのです。

「えい、何だそいつ」と思いながらそばへ行くくと、Y子さんは両手で四角い形をつくり、ジエスチャーで何か伝えようとしています。四角形といっても長方形でしたから、私はすぐに私の「バラ」のことだと判断しました。

私が毎週発行しているバラは「活動レポート」が正式名称なのですが、覚えにくいのかも知れません。これまでも、手で四角形をつくって私に何かを訴えようとした人が何人かいました。すべてこの活動レポートのことだったのです。Y子さんもやはりそうでした。

そばに行くくと、Y子さんは、玄関に上がっていく手前にある庭の一角を指差して語り始めました。

「これ、『春よ恋』というんです。こっちは恋なんですよけいね」

そう言っつて、Y子さんは人差し指で「恋」という字を書きました。

「じゃあ、おれと回した」

と冗談で言っつと、Y子さんは

「ダメダメ、それは……」

と言っつて笑いました。

「でも、そうありたいね」

「橋爪さんはいつもそつじやないですか」

「いやいや、なかなかそつは……」

私たちの会話を見ていた人がいるとすれば、何の掛け合い漫才をやっているのら

うと思われたことでしょう。Y子さんは、活動レポートに私が書いている随想、「春よ来い」と「来い」という字が違うけれど、同じ呼び名のアジサイがあることを私に伝えたかったのです。

Y子さんが私に見せてくれたのは植木鉢に植わったアジサイらしきものでした。「アジサイの一種なんですか」と尋ねたら、「そう、アジサイなの……」という言葉が返ってきました。

植木鉢をよく見ると、とつくに盛りを過ぎた花が一輪だけ残っていました。花の形は間違いなくアジサイでした。

それでも何となく信じられない思いがして、家に帰ってからインターネットで調べてみました。「春よ恋」は静岡県は掛川市の植物園が改良して作ったガクアジサイの一種でした。

インターネットでの情報によると、花の中心部もその周りも八重咲きとなり、ふんわりとした感じになるとあります。しかも、花は咲き進むうちに表情を変えていくといひます。母の日などのプレゼントとして使われていることもわかりました。

これだけの情報が入れば、もう一度、Y子さんのところの「春よ恋」がどんなものだったか改めて見てみたくなります。まずは写真を見てみようと思っつたところで、Y子さんの話に夢中になって写真を撮っつていなくなつたことに気づきました。

朝食後、再び鳥倉団地へ行きました。

Y子さん宅の「春よ恋」をじっくり見ると、青々としている葉っぱの中に花が残っていました。花はすでに薄緑になっていたものの、ポリウム感があります。「恋」という名前がついているので花盛りの色はおそらくピンクでしょう。それにしても、名前だけでわくわくする花があるとは……。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月7日(水)	11月14日(水)
上越南消防署	0.050	0.047
上越北消防署	0.040	0.047
新井消防署	0.040	0.050
頸北消防署	0.053	0.043
頸南消防署	0.050	0.060
東頸消防署	0.037	0.047
高士分遣所	0.050	0.047
名立分遣所	0.040	0.053



工夫が面白い

吉川区の源地区で11日に行われた農産物品評会。今年も大根、ネギ、ジャガイモなど、りっぱなものが並びました。

そのなかには、竹細工の腕を活かしてカゴをつくり、そのなかに甘柿を入れたものもありました。また、めずらしいゴールドキウイを出品した人も。みんな、大したものです。

桃園町内会で初の作品展

柿崎区の桃園町内会が11日、初めて作品展を開催しました。

出展された作品は、編み物、木工細工、油絵、写真、絵手紙、手芸等。個人の部だけでも44点もありました。着物リメイク(作り直し・作者は松浦久美子さん)は初めて見ました。スゲでバツパをつくったものもありましたよ。町内会長さんは、「こんなに作品が集まるなんて……」とうれしそうでしたね。



春よ来い

第五三二回 「春よ恋」

ひと月ほど前の朝のことです。吉川区の鳥倉団地で「しんぶん赤旗」の配達をしているときでした。

父の代からお世話になっている家のY子さんの姿が見えたので、朝の挨拶をしました。普通ならそれだけで終わりなのですが、この日は違いました。私が車に乗り込もうとしたところで、Y子さんに、「橋爪さん」と呼びこめられたのです。

「えっ、何だそっ」と思いながらそばへ行く、Y子さんは両手で四角い形をつくり、ジエスチャーで何か伝えようとしています。四角形といっても長方形でしたから、私はすぐに私の「バラ」のことだと判断しました。

私が毎週発行しているバラは「活動レポート」が正式名称なのですが、覚えにくいのかも知れません。これまでも、手で四角形をつくって私に何かを訴えようとした人が何人かいました。すべてこの活動レポートのことだったのです。Y子さんもやはりそうでした。

そばに行く、Y子さんは、玄関に上がっていく手前にある庭の一角を指差して語り始めました。

「これ、『春よ恋』というんです。こっちは恋なんですよけいね」

そう言っ、Y子さんは人差し指で「恋」という字を書きました。

「じゃあ、おれと回した」と冗談で言っ、Y子さんは

「ダメダメ、それは……」

「でも、そうありたいね」

「橋爪さんはいつもそっじゃないですか」「いやいや、なかなかそっは……」

私たちの会話を見ていた人がいるとすれば、何の掛け合い漫才をやっているのら

うと思われたことでしょう。Y子さんは、活動レポートに私が書いている随想、「春よ来い」と「来い」という字が違うけれど、同じ呼び名のアジサイがあることを私に伝えたかったのでした。

Y子さんが私に見せてくれたのは植木鉢に植わったアジサイらしきものでした。「アジサイの一種なんですか」と尋ねたら、「そう、アジサイなの……」という言葉が返ってきました。

植木鉢をよく見ると、とくに盛りを過ぎた花が一輪だけ残っていました。花の形は間違いなくアジサイでした。

それでも何となく信じられない思いがして、家に帰ってからインターネットで調べてみました。「春よ恋」は静岡県は掛川市の植物園が改良して作ったガクアジサイの一種でした。

インターネットでの情報によると、花の中心部もその周りも八重咲きとなり、ふんわりとした感じになるとあります。しかも、花は咲き進むうちに表情を変えていくといひます。母の日などのプレゼントとして使われていることもわかりました。

これだけの情報が入れば、もう一度、Y子さんのところの「春よ恋」がどんなものだったか改めて見てみたくなります。まずは写真を見てみようと思っ、Y子さんとこの話に夢中になって写真を撮っ、いなくなっ、ついに気づきました。

朝食後、再び鳥倉団地へ行きました。Y子さん宅の「春よ恋」をじっくり見ると、青々としている葉っぱの中に花が残っていました。花はすでに薄緑になっていたものの、ポリウム感があります。「恋」という名前がついているので花盛りの色はおそらくピンクでしょう。それにしても、名前だけでわくわくする花があるとは……。

農産物品評会、出品に当たり工夫されたものも

吉川区の源地区で11日に行われた農産物品評会。今年も大根、木芋、ジャガイモ、カブ、柿などりっぽなものが並びました。

好きな竹細工の腕を活かしてカゴをつくり、そのなかに甘柿を入れたのは山中の中村高ニさんです。竹カゴと竹でつくった飾りをヒモで結び、その先にキクの花を咲かせている。お見事でした。一人しか出品しなかつたものがいくつかありました。石谷の山賀源市さんの山芋、苦勞して掘ったのでしよう、よく傷めないで出品されたと思ひます。先日は初めて黒い柿に出合ったのですが、この日は大岩の塚田洋子さんのゴールドキウイと初顔合おせでした。どんな味が、食べてみたいですよ。

源地区では他地区と同様、人口流出が続いていますが、そんななかでも米山出身で三条市から通ひ、いろんな作物をつくっている中野貫一さんが大根を出されていひました。うれしい出品ですね。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月7日(水)	11月14日(水)
上越南消防署	0.050	0.047
上越北消防署	0.040	0.047
新井消防署	0.040	0.050
頸北消防署	0.053	0.043
頸南消防署	0.050	0.060
東頸消防署	0.037	0.047
高士分遣所	0.050	0.047
名立分遣所	0.040	0.053